第５章

事例集

Ⅰ．小学校 教員養成

コア・カリキュラムの学習項目を元に構成されるシラバス例①～⑧を提示する。①及び②は、コア・カリキュラムの学習項目のみで構成されたもの、③～⑧は項目を追加した例であり、追加した項目には 「*」を付した。

個々の学習項目を１回の授業で扱う必要があるわけではない。１つの項目を複数回の授業で扱うことも、複数の項目を１回の授業で扱うことも可能である。

シラバスを作成する際は、コア・カリキュラムの学習項目と必ずしも同一の表現を使う必要はない。

１．外国語の指導法

① コア・カリキュラム学習項目のみで構成

模擬授業をまとめて行う例

授業スケジュール	回	
	1	オリエンテーション、学習指導要領
	2	小・中・高等学校の連携と小学校の役割、児童や学校の多様性への対応、主教材
	3	言語使用を通した言語習得、音声によるインプットの内容を類推し、理解するプロセス、児童の発達段階の特徴を踏まえた音声によるインプットの在り方
	4	コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて他者に配慮しながら、伝え合うこと、受信から発信、音声から文字へと進むプロセス、国語教育との連携等によることばの面白さや豊かさへの気づき
	5	授業視聴、ディスカッション
	6	英語で語りかけ方、実践練習
	7	児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方、実践練習
	8	文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方、実践練習
	9	学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、年間指導計画・単元計画・学習指導案等）、学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）
	10	題材の選定、教材研究、ICT 等の活用
	11	ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方
	12	模擬授業（1）
	13	模擬授業（2）
	14	模擬授業（3） 振り返り
	15	まとめ

② コア・カリキュラム学習項目のみで構成

模擬授業を分散させた例

授業スケジュール	回	
	1	オリエンテーション、学習指導要領
	2	小・中・高等学校連携、児童や学校の多様性への対応、主教材
	3	言語使用、類推、音声
	4	目的や場面、状況に応じて伝え合うこと、4技能のとらえ方、ことばの面白さや豊かさへの気づき
	5	学習到達目標、年間指導計画・単元計画・学習指導案
	6	学習状況の評価
	7	題材の選定、教材研究、ICT 教材の活用
	8	模擬授業（教材）
	9	英語での語りかけ方、発話の引き出し方、児童とのやり取り、実践練習
	10	模擬授業（聞く指導・話す指導）
	11	文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方、実践練習
	12	模擬授業（文字の指導）
	13	ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方
	14	模擬授業（ティーム・ティーチング）
	15	まとめ

③ コア・カリキュラム学習項目以外の項目を追加して構成

活動例を示し、模擬授業を重視した例

授業スケジュール	回	
	1	オリエンテーション、英語教育全体把握*
	2	学習指導要領、主教材、ICT 等の活用、歌の活動*
	3	映像視聴、子どもの学び方の特徴（言語使用を通した言語習得、類推から理解へ、音声によるインプットの在り方
	4	授業模擬体験、ことばの学ばれ方の特徴（場面に合った意味のあるやり取りの重要性、受信から発信、音声から文字へと進むプロセス）
	5	映像視聴、英語での語りかけ方（聞く指導）、TPR による活動（サイモン・セズ）*
	6	児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方（話す指導）、絵本の活用*
	7	文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方、国語教育との連携等によることばの面白さや豊かさへの気づき
	8	ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方、児童や学校の多様性への対応、異文化理解の視点*
	9	指導計画（年間指導計画、単元構成、短時間学習）
	10	指導計画（1 時間の授業構成、学習指導案）、学習状況の評価
	11	模擬授業設計準備、題材、教材
	12	模擬授業発表・振り返り（1）
	13	模擬授業発表・振り返り（2）
	14	模擬授業の授業改善
	15	小・中・高等学校の連携と小学校の役割 まとめ

④ コア・カリキュラム学習項目以外の項目を追加して構成

子どもの第二言語習得について理解することを重視し、理論と実践を交えた構成とした例

授業スケジュール	回	
	1	オリエンテーション、英語教育全体把握*
	2	学習指導要領、主教材、ICT 等の活用
	3	映像視聴、子どもの学び方の特徴①：言語使用を通した言語習得－TPR による活動*
	4	子どもの学び方の特徴②：類推から理解へと進むプロセス－絵本の活用①* 子どもの学び方の特徴③：音声によるインプットの在り方－歌の活動*
	5	ことばの学ばれ方の特徴①：場面に合った意味のあるやり取り、スキット活動*
	6	ことばの学ばれ方の特徴②：受信から発信、音声から文字へと進むプロセス 絵本の活用②*
	7	映像視聴、英語での語りかけ方（聞く指導）
	8	児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方（話す指導）
	9	文字言語との出会わせ方、読む活動・書く活動への導き方 アルファベットカード・ブロックを使った活動*、絵本の活用③*
	10	ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方、学校・児童の多様性への対応 異文化理解の視点*
	11	学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）、国語教育との連携等によることばの面白さや豊かさへの気づき
	12	指導計画（年間指導計画、単元計画、短時間学習）、シラバス*
	13	指導計画（1 時間の授業構成、学習指導案）、題材、教材 模擬授業設計準備
	14	模擬授業発表、振り返り、授業改善
	15	小・中・高等学校の連携と小学校の役割 まとめ

⑤ コア・カリキュラム学習項目以外の項目を追加して構成

小学校での授業観察、授業参加を組み込み、実践的な内容を重視した例

授業スケジュール	回	
	1	オリエンテーション、英語教育全体把握*
	2	学習指導要領、主教材、ICT 等の活用
	3	映像視聴、子どもの学び方の特徴（言語使用を通した言語習得、類推から理解へ、音声によるインプットの在り方、歌の活動*
	4	授業模擬体験、ことばの学ばれ方の特徴（場面に合った意味のあるやり取り、受信から発信、音声から文字へと進むプロセス）
	5	映像視聴、英語での語りかけ方（聞く指導）、TPR による活動（サイモン・セズ）*
	6	児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方（話す指導）、題材選定・教材研究、絵本の活用*
	7	文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方、国語教育との連携等によることばの面白さや豊かさへの気づき
	8	ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方、児童や学校の多様性への対応、異文化理解の視点*
	9	指導計画（年間指導計画、単元計画、短時間学習）、学習状況の評価
	10	学習指導目標、指導計画（1 時間の授業構成、学習指導案）
	11	模擬授業発表、振り返り
	12	小学校での授業観察
	13	小学校での授業参観、活動参加
	14	授業の振り返り、授業改善
	15	小・中・高等学校の連携と小学校の役割 まとめ

⑥ コア・カリキュラム学習項目以外の項目を追加して構成

外国語活動と外国語における指導のための基礎的な知識と演習を重視した例

授業スケジュール	回	
	1	オリエンテーション、外国語教育導入の経緯・現状*
	2	学習指導要領（外国語活動と外国語科の趣旨理解）、小・中・高等学校の連携と小学校の役割
	3	子どもの第二言語習得についての知識とその活用（言語使用を通した言語習得、類推する力、音声によるインプットの在り方）
	4	子どもの第二言語習得についての知識とその活用（受信から発信、音声から文字へと進むプロセス、ことばの面白さへの気づき、コミュニケーションの目的や場面、状況）
	5	主教材（中学年用）、ICT 等の活用の仕方、学習到達目標、指導計画
	6	授業映像の視聴（中学年の外国語活動）、討議
	7	主教材（高学年用）、ICT 等の活用の仕方、題材、教材、学習状況の評価
	8	映像視聴（高学年の外国語科）、討議
	9	模擬授業設計・準備（中学年：外国語活動の授業）、英語での語りかけ方、発話のひき出し方、やり取りの進め方
	10	模擬授業発表・振り返り・授業改善（1）
	11	模擬授業発表・振り返り・授業改善（2）
	12	模擬授業設計・準備（高学年：外国語科の授業）、文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動
	13	模擬授業発表・振り返り・授業改善（3）
	14	模擬授業発表・振り返り・授業改善（4）
	15	ALT とのティーム・ティーチング、児童や学校の多様性 まとめ

⑦ コア・カリキュラム学習項目以外の項目を追加して構成

インプットと意味のあるやり取りを通じた外国語習得の基礎的な知識と指導方法を理解し、授業設計と授業実践の基本を身に付けることを重視した例

授業スケジュール	回	
	1	オリエンテーション、外国語教育導入の経緯・現状*、学習指導要領
	2	主教材、小・中・高連携、多様性への対応
	3	子どもの学び方の特徴（発音・語彙習得の特徴と指導）*、言語使用、類推 音声によるインプットの在り方
	4	子どもの学び方の特徴（文法習得の特徴と指導）*
	5	ことばの学ばれ方の特徴（場面に合った意味のあるやり取り、コミュニケーションの目的や場面、状況）
	6	ことばの学ばれ方の特徴（受信から発信、音声から文字へと進むプロセス、ことばの面白さや豊かさ）
	7	題材の選定、教材研究、ICT、 指導計画（1 時間の授業づくり、単元・学習指導案、学習状況の評価）
	8	ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方
	9	指導技術演習１：語彙導入の方法（絵、実物、動作等によるインプット）*
	10	指導技術演習２：語彙導入の方法（言い換え、例示等によるインプット）*
	11	指導技術演習３：英語での語りかけ方、児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方
	12	指導技術演習４：絵本を使ったやり取りの演習１*
	13	指導技術演習５：絵本を使ったやり取りの演習２*
	14	指導技術演習６：文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方
	15	まとめ

⑧ コア・カリキュラム学習項目以外の項目を追加して構成

小学校外国語活動、外国語と中学校外国語（英語）の違いを意識し、小学生の発達段階にふさわしい教材、指導法、評価等について基本的知識を学び、演習することを重視した例

授業スケジュール	回	
	1	オリエンテーション、外国語教育導入の経緯・現状*
	2	学習指導要領（外国語活動と外国語、中学校外国語科の趣旨理解、小・中・高等学校の連携と小学校の役割）
	3	子どもの第二言語習得の特徴1（明示的・暗示的学習、音声・文法・語彙等の習得*、言語使用、類推、音声、ことばの面白さ）
	4	子どもの第二言語習得の特徴2（受信から発信、音声から文字へと進むプロセス、コミュニケーションの目的や場面、状況）
	5	主教材（中学年用）、デジタル教材の活用について
	6	主教材（高学年用）、デジタル教材の活用について
	7	中学校の英語教材について*
	8	小学校と中学校の教材比較*
	9	題材の選定、教材研究、ICT 等の活用 指導計画（1 時間の授業づくり、単元計画・学習指導案、ティーム・ティーチング）
	10	映像視聴（中学年）、英語での語りかけ方、発話のひき出し方、やり取りの進め方
	11	映像視聴（高学年）、文字言語の扱い、読む活動・書く活動
	12	映像視聴（中学校）
	13	小・中学校の連携に関わる様々な実践事例検討*
	14	学習状況の評価（小学校外国語活動・外国語、中学校外国語）、児童や学校の多様性への対応
	15	まとめ

２．外国語に関する専門的事項

コア・カリキュラムの学習項目を元に構成されるシラバス例①～④を提示する。①は１単位、②～④は２単位を想定した例である。いずれの事例も各回の授業を「英語に関する背景的な知識」「授業実践に必要な英語力」などの２～３の項目に分けて実施する事例となっているが、オムニバスで開講する場合などは、実態に合わせて柔軟に回ごとに項目を分けることも可能である。

① １単位８コマ分の授業構成例

授業スケジュール	回	英語に関する背景的な知識	授業実践に必要な英語力
	1	オリエンテーション	
	2	音声に関する基本的な知識	歌の指導（1）（聞くこと・話すこと）
	3	語彙に関する基本的な知識	歌の指導（2）（聞くこと・話すこと）
	4	文構造・文法に関する基本的な知識	活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（1）（聞くこと・話すこと）
	5	第二言語習得に関する基本的な知識	活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（2）（聞くこと・話すこと）
	6	児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）	絵本の読み聞かせ（1）（聞くこと・話すこと・読むこと）
	7	正書法・発音と綴りの関係に関する基本的な知識	絵本の読み聞かせ（2）（聞くこと・話すこと・読むこと）
	8	異文化理解に関する基本的な知識	板書や掲示物における英語の正しい表記（書くこと）

② ２単位15コマ分の授業構成例

英語力の向上と音声学に関する理解を中心とした例

授業スケジュール	回	英語に関する背景的な知識	授業実践に必要な英語力	発音練習
	1	オリエンテーション 自分の英語力を知る（聞くこと・話すこと＜やり取り・発表＞・読むこと・書くこと）		
	2	音声に関する基本的な知識（1）	歌の指導（1）（聞くこと・話すこと）	毎回５～10分程度の発音練習を行う。実態に合わせて個別レッスン等を実施する。
	3	音声に関する基本的な知識（2）	歌の指導（2）（聞くこと・話すこと）	
	4	発音と綴りの関係に関する基本的な知識（1）＊	歌の指導（3）（聞くこと・話すこと）	
	5	発音と綴りの関係に関する基本的な知識（2）＊	歌の指導（4）（聞くこと・話すこと）	
	6	文構造・文法に関する基本的な知識（1）	活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（1）（聞くこと・話すこと）	
	7	文構造・文法に関する基本的な知識（2）	活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（2）（聞くこと・話すこと）	
	8	語彙に関する基本的な知識	活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（3）（聞くこと・話すこと）	
	9	第二言語習得に関する基本的な知識（1）	絵本の読み聞かせ（1）（聞くこと・話すこと・読むこと）	
	10	第二言語習得に関する基本的な知識（2）	絵本の読み聞かせ（2）（聞くこと・話すこと・読むこと）	
	11	児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩）に関する基本的な知識	絵本の読み聞かせ（3）（聞くこと・話すこと・読むこと）	
	12	異文化理解に関する基本的な知識	自己紹介・地域紹介・（多）文化紹介（話すこと：発表）	
	13	異文化コミュニケーションに関する基本的な知識	場面や目的に応じた ALT との会話（話すこと：やり取り）	
	14	正書法に関する基本的な知識	板書や掲示物における英語の正しい表記（書くこと）	
	15	まとめ		

③ ２単位15コマ分の授業構成例

英語力の向上と児童文学に関する理解を中心とした例

授業 スケジュール	回	英語に関する背景的な知識 授業実践に必要な英語力	児童文学
	1	オリエンテーション 自分の英語力を知る（聞くこと・話すこと＜やり取り・発表＞・読むこと・書くこと）	
	2	音声に関する基本的な知識	2～3 回の授業で一つの児童文学（絵本や詩）を取り上げ、以下のことを行う。 1）背景について理解する。 2）読み聞かせの具体的な方法を体験し、実際に教師としてやってみる。 3）読み聞かせと関連する活動を体験し、実際に教師としてやってみる。
	3	発音と綴りに関する基本的な知識*	
	4	文構造・文法に関する基本的な知識	
	5	語彙に関する基本的な知識	
	6	第二言語習得に関する基本的な知識	
	7	歌の指導（1）（聞くこと・話すこと）	
	8	歌の指導（2）（聞くこと・話すこと）	
	9	活動を体験しながらの英語のやり取り（1） （聞くこと・話すこと）	
	10	活動を体験しながらの英語のやり取り（2） （聞くこと・話すこと）	
	11	活動を体験しながらの英語のやり取り（3） （聞くこと・話すこと）	
	12	自己紹介・地域紹介・（多）文化紹介（話すこと：発表）	
	13	場面や目的に応じた ALT との会話（話すこと：やり取り）	
	14	正書法・板書や提示物における英語の正しい表記（書くこと）	
	15	まとめ	

④ ２単位15コマ分の授業構成例

英語力の向上と異文化理解を中心とした例

授業 スケジュール	回	英語に関する背景的な知識 授業実践に必要な英語力	異文化理解
	1	オリエンテーション 自分の英語力を知る（聞くこと・話すこと＜やり取り・発表＞・読むこと・書くこと）	
	2	音声に関する基本的な知識	2～3 回の授業で一つのテーマを取り上げ、以下のことを行う。 1）テーマについて基本的な知識を得る。 2）ディスカッションや発表を通して、様々な角度からそのテーマについて考察し、理解を深める。 ＜テーマの例＞ ・世界の子どもたち ・多様な文化・言語とその背景 ・外国語を学ぶ意義 ・地球的課題（環境問題、人権、平和など） ・多言語・多文化社会での共生 など
	3	発音と綴りに関する基本的な知識	
	4	文構造・文法に関する基本的な知識	
	5	語彙に関する基本的な知識	
	6	第二言語習得に関する基本的な知識	
	7	歌の指導（1）（聞くこと・話すこと）	
	8	歌の指導（2）（聞くこと・話すこと）	
	9	活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（1） （聞くこと・話すこと）	
	10	活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（2） （聞くこと・話すこと）	
	11	活動を体験しながらの英語のやり取り・発表（3） （聞くこと・話すこと）	
	12	児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）（読むこと）	
	13	場面や目的に応じた ALT との会話（話すこと：やり取り）	
	14	正書法・板書や掲示物における英語の正しい表記（書くこと）	
	15	まとめ	

Ⅱ．中・高等学校 教員養成

１．英語科の指導法

① 校種別

授業名	内容
英語科教育法Ⅰ （2 単位） 指導技術の 基礎	・学習指導要領（小・中・高等学校） ・音声指導 ・文法指導 ・聞くことの指導 ・書くことの指導 ・異文化理解の指導 ・領域統合型の言語活動の指導 ・生徒の特性・習熟度への対応 ・教科用図書（小・中・高等学校） ・語彙・表現指導 ・文字指導 ・話すこと（やり取り・発表）の指導 ・読むことの指導 ・英語でのインタラクション ・ＡＬＴ等とのティーム・ティーチング ※少なくとも 10 分～15 分程度の模擬授業（ある活動を取り上げて教員役として模擬授業を行う）を含む。
英語科教育法Ⅱ （2 単位） 中学校での 指導と評価	※英語科教育法Ⅰから繰り返し扱う項目については、中学校での実践を意識して復習する。 ・学習指導要領（中学校） ・音声指導 ・文法指導 ・聞くことの指導 ・読むことの指導 ・領域統合型の言語活動の指導 ・目標設定・指導計画 ・学習指導案の作成 ・教材研究・ICT 等の活用 ・英語でのインタラクション ・ＡＬＴ等とのティーム・ティーチング ・教科用図書（中学校） ・語彙・表現指導 ・文字指導 ・話すこと（やり取り・発表）の指導 ・書くことの指導 ・言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む） ・学習到達目標に基づく授業の組み立て ・観点別学習状況の評価・評価規準の設定・評定への総括 ・生徒の特性・習熟度への対応 ※4 人程度のグループを作り、中学校の 50 分間の授業の学習指導案を作成し、そのうちの一部分或いは全体の模擬授業を行う。
英語科教育法Ⅲ （2 単位） 高等学校での 指導と評価	※英語科教育法Ⅱから繰り返し扱う項目については、高等学校での実践を意識して復習する。 ・学習指導要領（高等学校） ・音声指導 ・文法指導 ・聞くことの指導 ・書くことの指導 ・領域統合型の言語活動の指導 ・目標設定・指導計画 ・学習指導案の作成 ・教材研究・ICT 等の活用 ・英語でのインタラクション ・教科用図書（高等学校） ・語彙・表現指導 ・文字指導 ・話すことの（やり取り・発表）指導 ・読むことの指導 ・言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む） ・学習到達目標に基づく授業の組み立て ・観点別学習状況の評価・評価規準の設定・評定への総括 ・生徒の特性・習熟度への対応 ※4人程度のグループを作り、高等学校における50分授業の学習指導案を作成し、そのうちの一部分或いは全体の模擬授業を行う。
英語科教育法Ⅳ （2 単位） 言語習得に関する知識と授業づくり	＜専門知識＞ ・第二言語習得 ・第二言語に関する内容について、情報をまとめてプレゼンテーションをしたり、グループを作ってディスカッションをしたりする。また、学んだ知識を基に、授業中に行う効果的な指導法や活動について具体的に考える。

＜留意点＞
●授業観察、授業体験は適宜行う。
●項目の順番は指導順を表しているわけではない。
●時間配分について、必ずしも1つの項目に1時間ずつ割り当てるわけではなく、複数の項目を1時間で扱うこともあれば、1つの項目を数時間かけて扱うこともある。
●学生1人につき複数回、学習指導案を作り模擬授業を行う機会を作ることが望ましい。
●英語科教育法Ⅰ～Ⅳを順番に履修することが望ましい。

② 学習項目別

授業名	内容
英語科教育法Ⅰ （2 単位） 教科教育の 基礎を学ぶ	・学習指導要領　・教科用図書 ・音声指導　・語彙・表現指導 ・文法指導　・文字指導 ・教材研究・ICT 等の活用　・英語でのインタラクション ・生徒の特性・習熟度への対応 ※少なくとも 10 分～15 分程度の模擬授業（ある活動を取り上げて教員役として模擬授業を行う）を含む。
英語科教育法Ⅱ （2 単位） 指導技術の基礎 を身に付ける	※英語科教育法Ⅰから繰り返し扱う項目については、復習として扱う。 ・音声指導　・語彙・表現指導 ・文法指導　・文字指導 ・異文化理解の指導　・教材研究・ICT 等の活用 ・英語でのインタラクション　・ALT 等とのティーム・ティーチング ・生徒の特性・習熟度への対応 ※少なくとも 10 分～15 分程度の模擬授業（ある活動を取り上げて教員役として模擬授業を行う）を含む。
英語科教育法Ⅲ （2 単位） ５領域及び 領域統合型の 指導技術と 評価方法を学ぶ	・聞くことの指導　・話すこと（やり取り・発表）の指導 ・読むことの指導　・書くことの指導 ・領域統合型の言語活動の指導　・言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む） ・学習指導案の作成 ※4 人程度のグループを作り、各領域の活動を含む学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 ※テスト作成やパフォーマンス評価の体験や実演などを行う。

授業名	内容
英語科教育法Ⅳ （2 単位） 言語習得に関する 知識と授業づくり	・目標設定・指導計画　・学習到達目標に基づく授業の組み立て ・学習指導案の作成 ・観点別学習状況評価・評価規準の設定・評定への総括　・小・中・高等学校連携 ・第二言語習得 ※4人程度のグループを作り、中学校或いは高等学校の50分間の授業の学習指導案を作成し、そのうち30分程度を取り出して模擬授業を行う。

＜留意点＞

●授業観察、授業体験は適宜行う。

●項目の順番は指導順を表しているわけではない。

●時間配分について、必ずしも1つの項目に1時間ずつ割り当てるわけではなく、複数の項目を1時間で扱うこともあれば、1つの項目を数時間かけて扱うこともある。

●学生1人につき複数回、学習指導案を作り模擬授業を行う機会を作ることが望ましい。

●英語科教育法Ⅰ～Ⅳを順番に履修することが望ましい。

２．英語科に関する専門的事項

①英語コミュニケーション

中・高等学校の外国語科の授業に資する十分な英語運用能力を身に付けるために、英語コミュニケーションの授業を通して、英語力の５つの領域をバランスよく向上させる必要がある。５つの領域の扱い方については、１つの科目の中でバランスよく扱ってもよいし、各領域を重点的に扱う科目を設定してもよい。授業設定の仕方には、週に1或いは2時間ずつ行う通常の形態に加えて、集中形式が挙げられる。

まず、通常の形態で行う複数領域統合型の授業の例として、3～4 時間の授業時間数を使って、ある題材について英語で書かれた教材を読んだり映像を見るなどして内容を理解した後に、スピーチ、ディスカッション、ディベート等の英語での発表・やり取りを行ったり、アカデミックエッセイを書いたりするという流れを繰り返し、15 回の授業の中で４つから５つの題材を扱う授業が挙げられる。

集中形式の授業の例としては、長期休暇等の期間に５日間～1週間程度の期間、朝から夕方まで日本語を使用せず、4～5 人のグループに分かれて英語を使って様々な活動を行う集中演習授業が挙げられる。この授業では、授業を担当する教員に加えて、グループ活動の進行を行う補助学生（TA: Teaching Assistant）を設け、過去にこの授業を受講した経験がある学生がこれに当たる。このとき、TA として参加した学生の英語指導実践力も同時に成績評価し、単位を与える。この集中授業形式の授業に受講者として参加することと TA として参加することの両方を義務付けることで、英語を使いながら学ぶ授業形態に慣れるだけでなく、英語を使って活動を行う指導技術も身に付けることができる。

②英語学

中・高等学校の外国語の授業に資する十分な英語学的知見を身に付けるために、コア・カリキュラムに含まれる各項目について、教職を意識した内容を扱う。例えば、正しい発音を身に付けるために役に立つ英語の音声の仕組み、英語を教える上で役に立つ正確な英文法の知識、英語の歴史的変遷についての知識、国際共通語としての英語の位置づけなどを学ぶ。１つの科目内で各項目の内容を概論的に扱うこともできるし、それぞれの内容を重点的に扱う科目を設定し、より専門的に学ばせてもよい。

授業では、学生に言語学的知識を与えるだけでなく、学んだ知識を外国語科の授業にどのように生かすことができるかを考えさせることが肝要である。例えば、音声学を扱う授業では、音素やアクセント、音と綴りの関係、発音の仕組みといった音声学的な知識を学ぶことに加えて、正しく発音できるように練習させたり、学んだ知識を音声指導にどのように生かすことができるかについて考えさせたりするとよい。同様に、英文法、英語の歴史的変遷、国際共通語としての英語についても、言語学的知見と英語を教えることとの接点を意識した授業内容を目指す。

③英語文学

英語で書かれた文学を通じて学生の英語力、教養、指導技術を向上させることを意識した授業を行う。具体例としては、英語で書かれた代表的な文学作品を複数取り上げて、原文を読んだり関連する映画を鑑賞したりすることを通して多様な英語表現を学ぶといった内容が挙げられる。また、それぞれの文学作品の時代的、社会的、文化的背景や、そこに描かれている人々の生活や価値観を通して、多様な文化への理解を深めることもできる。授業形態としては、教員の講義を一方的に聞くだけでなく、学んだ内容をもとに英語でディスカッションをしたりエッセイを書いたりするなどの表現活動を含めることで、より多角的に文学を捉えさせることができる。さらに、教材として文学作品を利用する可能性を考えさせたり、実際に文学作品を用いて教材を作らせたりするといった、授業に役立つ活動を取り入れることが望ましい。

コア・カリキュラムに含まれる内容を概論的に１つの科目で扱うこともできるし、それぞれの内容を重点的に扱う科目を設定し、より専門的に学ばせてもよい。

④異文化理解

「異文化コミュニケーション」を扱う授業では、世界の文化、日本の文化、（異文化）コミュニケーション理論といった様々な観点から、教職に役立つ内容を意識して取り上げる。具体的な内容としては、これらの内容を扱った英語の文章や映像資料を通して得られた知識をもとに、英語でディスカッションをしたりエッセイを書いたりする活動が挙げられる。「異文化交流」を扱う授業例としては、留学生や地域に暮らす外国人との交流や、ICT 等を活用して海外の人たちとの交流を積極的に授業に取り入れることで、海外の文化に触れるだけでなく、日本文化について英語で発信する力を鍛えることを目指す授業が挙げられる。通常の授業でこのような内容を扱うのが難しい場合は、長期休暇等の期間に集中授業の形式で授業を実施することもできる。「英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化」を扱う際には、教員による講義だけでなく、グループごとに異なる国や地域の歴史・社会・文化について調べた内容をプレゼンテーションさせたり、ディスカッションさせるといった形式を取り入れることもできる。

コア・カリキュラムに含まれる内容を概論的に 1 つの科目で扱うこともできるし、それぞれの内容を重点的に扱う科目を設定し、より専門的に学ばせてもよい。

Ⅲ．小学校 教員研修

内容（基礎・応用・推進）と授業研究（ある・なし）との組み合わせを６パターン提示し、各パターンで時間の枠組み（A：5～15分の短い時間で複数回行う、B：90分程度１、２回行う、C：45分～90分のまとまった時間で複数回行う）を設けコア・カリキュラムの研修項目の配列事例を１～６に記載した。また各事例がどの研修項目を含んでいるかを示す一覧表を付した。特に研修形式で最も多いと思われるBについては、７としてテーマ別に事例を示した。また８として免許状更新講習の事例を、９、10として教育職員免許法認定講習の事例をそれぞれ示した。

１．基礎的な内容・授業研究あり

●Ａ：5～15分の短い時間で複数回行う場合

リーダーが中心となり、学級担任が自信を持って授業で英語を使用できるようになることを目指す。

第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回
発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話			英語での語りかけ方	児童とのやり取りの進め方		児童の発話の引き出し方	

●Ｂ：90分程度1，2回行う場合

公開授業を担当しない教員も、基本的な知識・技能の習得と英語力向上を目指して、内容及び課題意識を共有する。

	第１回	第２回
指導に必要な知識・技能	・学習指導要領（1） ・英語での語りかけ方 ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・題材の選定、教材研究 ・学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案） ・ICT等の活用の仕方	・学習指導要領（2） ・子どもの第二言語習得についての知識とその活用 ・文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方 ・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む） ・ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方
英語力	・授業で扱う主たる英語表現の正しい運用 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（1）	・板書や提示物における英語の正しい表記 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（2）

●Ｃ：30～90分のまとまった時間で複数回行う場合

公開授業を担当しない教員も、基本的な知識・技能の習得と英語力向上を目指して、内容及び課題意識を共有する。

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回
指導に必要な知識・技能	子どもの第二言語習得についての知識とその活用		公開授業の題材の選定・教材開発・学習到達目標、指導計画の検討（単元計画・学習指導案）			授業公開 授業改善 次年度の年間指導計画
英語力	発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話	ALT等と授業について打ち合わせをするための表現	クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り			

２．基礎的な内容・授業研究なし

●Ａ：5～15分の短い時間で複数回行う場合

リーダーが中心となり、学級担任が自信を持って授業で英語を使用できることを目指す。

第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回
発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話		英語での語りかけ方		児童とのやり取りの進め方		児童の発話の引き出し方	

●Ｂ：90分程度1，2回行う場合

リーダーが中心となり、基本的な知識・技能の習得と英語力向上を目指して、内容及び課題意識を共有する。

	第１回	第２回
指導に必要な知識・技能	・学習指導要領 ・主教材 ・英語での語りかけ方 ・題材の選定、教材研究 ・学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案）	・子どもの第二言語習得についての知識とその活用 ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方 ・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む） ・ICT等の活用の仕方
英語力	・授業で扱う主たる英語表現の正しい運用 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（1）	・板書や提示物における英語の正しい表記 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（2）

●Ｃ：30～90分のまとまった時間で複数回行う場合

授業計画や題材選定・教材開発の仕方等の授業づくりのための知識を習得すると同時に、英語力向上を目指す。

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回
指導に必要な知識・技能	子どもの第二言語習得についての知識とその活用		題材の選定、教材研究		学習到達目標、指導計画（単元計画・学習指導案）	
英語力	授業で扱う主たる英語表現の正しい運用		発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話		板書や提示物における英語の正しい表記	

３．発展的な内容・授業研究あり

●Ａ：5～15分の短い時間で複数回行う場合

リーダーが中心となり、定期的な研修機会を設け、学級担任が自信を持って授業で英語を使用できることを目指す。

第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回	第９回	第１０回
発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話			英語での語りかけ方（1）	英語での語りかけ方（2）	児童とのやり取りの進め方（1）	児童とのやり取りの進め方（2）	児童の発話の引き出し方（1）	児童の発話の引き出し方（2）	文字言語との出合わせ方

●Ｂ：90分程度1，2回行う場合

公開授業を担当しない教員も、基本的な知識・技能の習得と英語力向上を目指して、内容及び課題意識を共有する。

	第１回	第２回
指導に必要な知識・技能	・学習指導要領（1） ・英語での語りかけ方 ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・主教材 ・題材の選定、教材研究 ・学習到達目標、指導計画（単元計画・学習指導案） ・ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方	・学習指導要領（2） ・子どもの第二言語習得についての知識とその活用 ・文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方 ・小・中・高等学校の連携と小学校の役割 ・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む） ・ICT等の活用の仕方 ・児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩など）
英語力	・授業で扱う主たる英語表現の正しい運用 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（1） ・児童の発話や行動に対する適切な言い直し	・板書や提示物における英語の正しい表記 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（2） ・児童の理解に合わせた適切な言い換え

●Ｃ：30～90分のまとまった時間で複数回行う場合

公開授業に向けて、授業計画や題材選定・教材開発の仕方等の授業づくりのための知識を習得すると同時に、英語力向上を目指す。公開授業及び研修をできる限り近隣の小・中学校とも共有し、地域全体の英語力・指導力向上を目指す。

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回
指導に必要な知識・技能	子どもの第二言語習得についての知識とその活用		異文化理解	題材の選定 教材研究	学習到達目標、指導計画（単元計画・学習指導案）		授業公開 授業改善 次年度の年間指導計画
英語力	クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り		ALT等と授業について打ち合わせをするための表現	授業で扱う主たる英語表現の正しい運用	板書や提示物における英語の正しい表記	児童の発話や行動に対する適切な言い直し	

４．発展的な内容・授業研究なし

●Ａ：5～15分の短い時間で複数回行う場合

英語表現の反復練習を通して、英語力の向上を目指す。

第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回	第９回	第１０回
発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話			英語での語りかけ方（1）	英語での語りかけ方（2）	児童とのやり取りの進め方（1）	児童とのやり取りの進め方（2）	児童の発話の引き出し方（1）	児童の発話の引き出し方（2）	文字言語との出合わせ方

●Ｂ：90分程度1，2回行う場合

リーダーの講義・演習を通して、授業づくりのための基本的な知識・技能の習得と英語力向上を目指す。

	第１回	第２回
指導に必要な知識・技能	・学習指導要領（1） ・主教材 ・英語での語りかけ方 ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・第二言語習得に関する基本的な知識 ・学習到達目標、指導計画（年間指導計画・短時間学習） ・ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方	・学習指導要領（2） ・子どもの第二言語習得についての知識とその活用 ・英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等） ・小・中・高等学校の連携と小学校の役割 ・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む） ・ICT等の活用の仕方 ・児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩など）
英語力	・授業で扱う主たる英語表現の正しい運用 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（1） ・児童の発話や行動に対する適切な言い直し	・板書や提示物における英語の正しい表記 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（2） ・ALT等と授業について打ち合わせをするための表現

●Ｃ：30～90分のまとまった時間で複数回行う場合

リーダーの講義・演習を通して、授業づくりのための知識の習得と英語力向上を目指す。

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回
指導に必要な知識・技能	子どもの第二言語習得についての知識とその活用		題材の選定 教材研究	異文化理解	ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方		ICT等の活用の仕方
英語力	クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り		ALT等と授業について打ち合わせをするための表現	授業で扱う主たる英語表現の正しい運用	板書や提示物における英語の正しい表記		児童の発話や行動に対する適切な言い直し

５．推進的な内容・授業研究あり

●Ａ：5～15分の短い時間で複数回行う場合

自信を持って授業で英語を使用することができることを目指す。

第１回	第２回	第３回
児童の発話や行動に対する適切な言い直し	児童の理解に合わせた適切な言い換え	児童の発話や行動に対する即興的な反応

●Ｂ：90分程度1，2回行う場合

英語力・指導力を更に高めるとともに、研修の講師として校内研修を企画・運営することができるようになる。

	第１回	第２回
指導に必要な知識・技能	・学習指導要領（1） ・主教材 ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・題材の選定、教材研究 ・学習到達目標、指導計画（単元計画・学習指導案） ・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）（1） ・英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）	・学習指導要領（2） ・英語での語りかけ方 ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方 ・ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方 ・ICT等の活用の仕方 ・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）（2） ・モデルとなる授業
英語力	・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（1） ・児童の発話や行動に対する適切な言い直し ・児童の発話や行動に対する即興的な反応	・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（2） ・児童の理解に合わせた適切な言い換え ・児童の発話や行動に対する即興的な反応

●Ｃ：30～90分のまとまった時間で複数回行う場合

リーダーの講義・演習を通して、授業づくりのための知識の習得と英語力向上を目指す。

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回
	講義	課題分析、研修計画立案	公開授業指導案審議	授業研究	成果・課題、次年度の計画
指導に必要な知識・技能	学習指導要領 主教材	公開授業等の企画・運営	題材の選定・教材研究 学習到達目標、指導計画 （単元計画・学習指導案）	授業公開 モデルとなる授業	公開授業等の企画・運営
英語力	・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り ・児童の理解に合わせた適切な言い換え ・児童の発話や行動に対する適切な言い直し ・児童の発話や行動に対する即興的な反応				

※毎回の研修会の際に、10分から20分程度帯として英語力研修を行う。

６．推進的な内容・授業研究なし

●Ａ：5～15分の短い時間で複数回行う場合

自信を持って授業で英語を使用することができることを目指す。

第１回	第２回	第３回
児童の発話や行動に対する適切な言い直し	児童の理解に合わせた適切な言い換え	児童の発話や行動に対する即興的な反応

●Ｂ：90分程度1，2回行う場合

英語力・指導力を更に高めるとともに、研修の講師として校内研修を企画・運営することができることを目指す。

	第１回	第２回
指導に必要な知識・技能	・学習指導要領（1） ・主教材 ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・題材の選定、教材研究 ・学習到達目標、指導計画（単元計画・学習指導案） ・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）（1） ・英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）	・学習指導要領（2） ・英語での語りかけ方 ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方 ・ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方 ・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）（2） ・公開授業等の企画・運営
英語力	・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（1） ・児童の理解に合わせた適切な言い換え	・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（2） ・児童の発話や行動に対する即興的な反応

※公開授業を伴わない（公開授業等の設定が難しい）研修の場合、授業DVD（文部科学省配布）を視聴し、その映像を活用して校内研修の運営の仕方や協議会の進め方、指導のポイント等について研修を行う（第２回）

●Ｃ：30～90分のまとまった時間で複数回行う場合

英語力・指導力を更に高めるとともに、研修の講師として校内研修を企画・運営できることを目指す。

	第１回	第２回	第３回
	講義	課題分析、研修計画立案	講義：校内研修の進め方、指導のポイント
指導に必要な知識・技能	学習指導要領 主教材 英語に関する基本的な知識 （音声・語彙・文構造・文法・正書法等）	公開授業等の企画・運営	授業観察（DVD） 英語での語りかけ方 児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 学習状況の評価 （パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）
英語力	・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り ・児童の理解に合わせた適切な言い換え ・児童の発話や行動に対する適切な言い直し ・児童の発話や行動に対する即興的な反応		

【小学校　教員研修　事例１～６で扱っている内容一覧】

指導に必要な知識・技能	1	2	3	4	5	6
学習指導要領	✓	✓	✓	✓	✓	✓
主教材		✓	✓	✓	✓	✓
子どもの第二言語習得についての知識とその活用	✓	✓	✓	✓		
英語での語りかけ方	✓	✓	✓	✓	✓	✓
児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方	✓	✓	✓	✓	✓	✓
文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方	✓	✓	✓	✓	✓	✓
題材の選定、授業研究	✓	✓	✓	✓	✓	✓
学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案）	✓	✓	✓		✓	✓
ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方	✓		✓	✓	✓	✓
ICT等の活用の仕方	✓	✓	✓	✓	✓	
学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）	✓	✓	✓	✓	✓	✓
小・中・高等学校の連携と小学校の役割			✓	✓		
指導計画（年間指導計画・短時間学習）				✓	✓	
英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）				✓	✓	✓
第二言語習得に関する基本的な知識				✓		
児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）			✓	✓		
異文化理解				✓		
児童や学校の多様性への対応						

英語力	1	2	3	4	5	6
授業で扱う主たる英語表現の正しい運用	✓	✓	✓	✓		
発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話	✓	✓	✓	✓		
板書や掲示物における英語の正しい表記	✓	✓	✓	✓		
ALT等と授業について打ち合わせをするための表現	✓		✓	✓		
クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り	✓	✓	✓	✓	✓	✓
児童の発話や行動に対する適切な言い直し			✓	✓	✓	✓
児童の理解に合わせた適切な言い換え			✓		✓	✓
児童の発話や行動に対する即興的な反応					✓	✓

授業研究	1	2	3	4	5	6
授業観察（中学校の授業観察も含む）						✓
授業公開	✓		✓		✓	
公開授業等の企画・運営					✓	✓
モデルとなる授業					✓	

７．発展的な内容を90分程度１、２回行う場合の更なる事例

●担任による授業をテーマに研修を行う例

担任主導の授業における教員の役割を理解する。また、自信を持って授業で英語を使えることを目指す。

	第１回	第２回
指導に必要な知識・技能	・学習指導要領（１） ・英語での語りかけ方 ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・題材の選定・教材研究 ・学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案） ・ICT等の活用の仕方（１）	・学習指導要領（２） ・子どもの第二言語習得についての知識とその活用 ・文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方 ・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む） ・ICT等の活用の仕方（２）
英語力	・授業で扱う主たる英語表現の正しい運用 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（１）	・板書や掲示物における英語の正しい表記 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（２）

●ティーム・ティーチングによる授業をテーマに研修を行う例

ティーム・ティーチングの授業における教員の役割を理解する。また、自信を持って授業で英語を使ったり、ALT等と打ち合わせができることを目指す。

	第１回	第２回
指導に必要な知識・技能	・学習指導要領（１） ・主教材 ・英語での語りかけ方 ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方（１） ・学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案）	・学習指導要領（２） ・子どもの第二言語習得についての知識とその活用 ・ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方（２） ・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む） ・ICT等の活用の仕方
英語力	・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（１） ・ALT等と授業について打ち合わせをするための表現（１）	・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（２） ・ALT等と授業について打ち合わせをするための表現（２）

●中学年の児童を対象とする外国語活動をテーマに研修を行う例

中学年における外国語活動の目標・内容を理解し、様々な題材を用いて授業ができることを目指す。

	第１回	第２回
指導に必要な知識・技能	・学習指導要領（1） ・主教材 ・英語での語りかけ方 ・題材の選定・教材研究 ・学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案）	・学習指導要領（2） ・子どもの第二言語習得についての知識とその活用 ・児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等） ・ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方 ・ICT等の活用の仕方
英語力	・発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（1）	・板書や掲示物における英語の正しい表記 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（2）

●高学年の児童を対象とする外国語科をテーマに研修を行う例

高学年における外国語科の目標・内容を理解し、児童との意味のあるやり取りを中心とした授業ができることを目指す。

	第１回	第２回
指導に必要な知識・技能	・学習指導要領（1） ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方（1） ・題材の選定・教材研究 ・指導計画（年間指導計画・短時間学習） ・ICT等の活用の仕方	・学習指導要領（2） ・子どもの第二言語習得についての知識とその活用 ・文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方（1） ・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む） ・ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方 ・小・中・高等学校の連携と小学校の役割
英語力	・授業で扱う主たる英語表現の正しい運用 ・児童の発話や行動に対する適切な言い直し	・ALT等と授業について打ち合わせするための表現 ・児童の理解に合わせた適切な言い換え

●英語力の向上をテーマに研修を行う例

英語に対する苦手意識や不安を軽減し、基本的なクラスルーム・イングリッシュを土台に授業ができることを目指す。

	第１回 【演習】クラスルーム・イングリッシュ、アクティビティ	第２回 【演習】英語の絵本の読み聞かせ
指導に必要な知識・技能	・英語での語りかけ方 ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）	・英語での語りかけ方 ・児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方 ・題材の選定、教材研究 ・児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等） ・異文化理解
英語力	・授業で扱う主たる英語表現の正しい運用（1） ・発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話（1） ・ALT等と授業について打ち合わせをするための表現（1） ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（1）	・授業で扱う主たる英語表現の正しい運用（2） ・発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話（2） ・ALT等と授業について打ち合わせをするための表現（2） ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（2）

●教材をテーマに研修を行う例

様々な教材について理解し、それらを適切に活用して授業ができることを目指す。

	第１回	第２回
指導に必要な知識・技能	・題材の選定・教材研究（1） ・学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案）（1） ・英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等） ・ICT等の活用の仕方（1）	・題材の選定・教材研究（2） ・学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案）（2） ・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む） ・ICT等の活用の仕方（2）
英語力	・授業で扱う主たる英語表現の正しい運用 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（1）	・板書や提示物における英語の正しい表記 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り（2）

●小・中学校で合同で研修を行う例

小学校における指導目標、指導法、授業で扱う教材等について、授業参観を通して小・中学校の教員が相互理解する。また授業で扱う基本的な教室英語の演習を通して英語力向上を目指す。

	第１回 【授業参観（小学校もしくは中学校）、協議】【演習：クラスルーム・イングリッシュ】
指導に必要な知識・技能	・学習指導要領 ・主教材 ・学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案） ・小・中・高等学校の連携と小学校の役割 ・英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）
英語力	・授業で扱う主たる英語表現の正しい運用 ・板書や提示物における英語の正しい表記 ・クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り

※小学校の授業参観が基本だが、中学校の授業を参観することも理解を深める上で有効である。

８．免許状更新講習

授業 スケジュール	回	
	1	外国語教育導入の経緯・現状、学習指導要領・主教材・ICT 等の活用、子どもの第二言語習得についての知識とその活用
	2	授業で扱う主たる英語表現の演習（発音、綴り、文法等）、学習到達目標、指導計画（年間指導計画、1 時間の授業計画、単元計画・学習指導案）
	3	児童の発話の引き出し方・児童とのやり取りの進め方、文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方
	4	ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方、学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）、小・中・高等学校の連携と小学校の役割

９．教育職員免許法認定講習（中学校教諭二種免許状（外国語（英語））【２単位】

授業 スケジュール	回	
	1	オリエンテーション、小・中・高等学校の連携と小学校の役割
	2	学習指導要領、主教材、ICT 等の活用の仕方
	3	映像視聴、子どもの学び方の特徴①：言語使用を通した言語習得－TPR による活動*
	4	授業模擬体験、子どもの学び方の特徴②：類推から理解へと進むプロセス－絵本の活用* 子どもの学び方の特徴③：音声によるインプットの在り方－歌の活動*
	5	映像視聴、ことばの学ばれ方の特徴①：場面に合った意味のあるやり取り
	6	ことばの学ばれ方の特徴②：受信から発信、音声から文字へと進むプロセス
	7	英語での語りかけ方（聞く指導）
	8	児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方（話す指導）
	9	文字言語との出合わせ方、読む活動への導き方
	10	書く活動への導き方、国語教育との連携等によることばの面白さや豊かさへの気づき
	11	ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方、児童や学校の多様性への対応、異文化理解*
	12	学習到達目標、指導計画（年間指導計画、単元計画、短時間学習）、学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）
	13	題材の選定、教材研究、指導計画（1 時間の授業構成、学習指導案）
	14	模擬授業発表、振り返り、授業改善
	15	まとめ

※　コア・カリキュラムの項目以外の内容には*を付した。

10. 教育職員免許法認定講習（中学校教諭二種免許状（外国語（英語））【１単位】

授業 スケジュール	回	
	1	小・中・高等学校の連携と小学校の役割 子どもの学び方の特徴①―音声によるインプットの在り方
	2	学習指導要領・主教材・ICT 等の活用
	3	映像視聴，子ども学び方の特徴②―言語使用を通した言語習得 子ども学び方の特徴③―類推から理解へと進むプロセス
	4	授業模擬体験，ことばの学ばれ方の特徴①―場面に合った意味のあるやり取り ことばの学ばれ方の特徴②―受信から発信、音声から文字へと進むプロセス
	5	映像視聴，英語での語りかけ方（聞く指導） 英語での発話の引き出し方・児童とのやり取りの進め方（話す指導）
	6	文字言語の与え方、読む活動・書く活動への導き方
	7	年間指導計画・単元構成・1 時間の授業構成・短時間学習
	8	学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む） ティーム・ティーチングによる指導の在り方、児童・学校の多様性への対応

Ⅳ．中・高等学校 教員研修

各研修項目を必ずしも独立した研修テーマとして扱うということではなく、１つのテーマの研修内で複数の項目が含まれていてもよい。

法定研修　専門教科に関する研修（初任者研修）　確保が可能な日数に応じた研修項目の組み合わせ

確保可能な日数	１～２日間	３～４日間	５～６日間	７日間以上
教育センター等における集合研修	下記項目から選択 ・５つの領域別の目標に基づく指導 ・英語でのインタラクション（ティーチャー・トークを含む） ・授業の組み立て ・学習指導案の作成 ※上記項目については演習形式で学ぶ ・学習指導要領 ・アクション・リサーチなどに基づく授業改善（授業改善のための方法を知る）	左記の研修項目に以下の項目を適宜追加 ・教科用図書を活用した授業 ・パフォーマンス評価を含む５つの領域の評価（テスト作成を含む） ・英語力向上研修	左記の研修項目に以下の項目を適宜追加 ・音声指導 ・文法指導 ・教材研究・ICT 等の活用	左記の研修項目に以下の項目を適宜追加 ・語彙・表現指導 ・生徒による学習の振り返り ・第二言語習得 ・教職に役立つ英文法 ・音声指導に役立つ英語音声学 ・異文化交流 ・英語の外部資格・検定試験（４技能型）を活用した英語力の自己モニター

（参考）年間 25 日以上　⇒　（平成 26 年度 初任者研修実施状況調査 年間 20.2 日　宿泊研修　中学校 3.2 日　高等学校 3.6 日）

	年間を通した継続的研修
校内（勤務校）研修	・５つの領域別の目標に基づく指導 ・英語でのインタラクション（ティーチャー・トークを含む） ・アクション・リサーチなどに基づく授業改善（授業改善のための実践を行う） ・領域別の学習到達目標の設定と改善 ・授業の組み立て ・学習指導案の作成 ・教科用図書を活用した授業 ・ALT 等とのティーム・ティーチング ・教材研究・ICT 等の活用 ・パフォーマンス評価を含む５つの領域の総合的な評価（テスト作成を含む）

（参考）週 10 時間以上、年間 300 時間以上⇒（平成 26 年度 初任者研修実施状況調査：中学校での事前準備等を含めた指導時間数は１週当り 8.1 時間　直接指導時間は 5.4 時間）

法定研修　専門教科に関する研修（中堅教諭等資質向上）　確保が可能な日数に応じた研修項目の組み合わせ

確保可能な日数	１日間	２日間	３日間以上
教育センター等における集合研修	下記項目から選択 ・５つの領域別の目標に基づく指導 ・英語でのインタラクション（ティーチャー・トークを含む） ・学習到達目標に基づく年間指導計画・単元計画の作成 ・アクション・リサーチなどに基づく授業改善 ・授業の組み立て ・パフォーマンス評価を含む５つの領域の評価（テスト作成を含む） ※上記項目については演習形式で学ぶ ・英語教育の最新事情	左記の研修項目に以下の項目を適宜追加 ・音声指導 ・語彙・表現指導 ・文法指導 ・生徒による学習の振り返り ・教材研究・ICT 等の活用 ・第二言語習得 ・英語力向上研修	左記の研修項目に以下の項目を適宜追加 ・小・中・高等学校連携 ・カリキュラム開発 ・教職に役立つ英文法 ・音声指導に役立つ英語音声学 ・異文化交流 ・英語の外部資格・検定試験（４技能型）を活用した英語力の自己モニター ・授業研究会等の企画・運営 ・モデルとなる授業

（参考）年間 20 日程度　5 日間程度の短縮も可　⇒　（平成 26 年度 10 年経験者研修実施状況調査 研修日数 11.8 日）

	年間を通した継続的研修
校内（勤務校）研修	・５つの領域別の目標に基づく指導 ・英語でのインタラクション（ティーチャー・トークを含む） ・若手教員等への指導技術の指導 ・アクション・リサーチなどに基づく授業改善 ・領域別の学習到達目標の設定と改善 ・学習到達目標に基づく年間指導計画・単元計画の作成 ・教科用図書を活用した授業 ・ALT 等とのティーム・ティーチング ・教材研究・ICT 等の活用 ・パフォーマンス評価を含む５つの領域の評価（テスト作成を含む） ・小・中・高等学校連携 ・授業研究会等の企画・運営 ・モデルとなる授業

（参考）年間 20 日程度　⇒　（平成 26 年度 10 年経験者研修実施状況調査：研修日数 17.5 日）

都道府県等独自の研修（アクション・リサーチなどに基づく授業改善に特化した研修計画）

【研修所における研修確保日数が３～４日間の場合】

集合研修 ⇒ （0.5～１日）	勤務校での研修 ⇒	集合研修 ⇒ （0.5～１日）	勤務校での研修 ⇒	集合研修 ⇒ （１日）	勤務校での研修 ⇒	集合研修 （１日）
オリエンテーション 課題の焦点化*	焦点化した課題に 関する実態調査* （質的＋数量的調査）	講義 授業改善の方向性の 検討	実践	中間発表 検証	実践	報告 まとめ

※ 「課題の焦点化」では、日頃の自分の授業を振り返り、良い点や改善すべき点、生徒の「学習意欲」「授業参加状況」「英語力」等の特徴をリストアップしたものを持ち寄り、生徒との関わり方や指導法も含め、参加者との協議を通して、課題を絞り込む。

※ 「焦点化した課題に対する実態調査」では、焦点化した課題について正確に現状を把握するためのデータ収集を行う。
質的調査の例：生徒の観察、省察、アンケート、生徒からの聞き取り等
数量的調査の例：各種テスト結果（外部テスト、校内テスト）等

【研修所における研修確保日数が２～３日間の場合】

集合研修 ⇒ （１日）	勤務校での研修 ⇒	集合研修 ⇒ （０～１日）	勤務校での研修 ⇒	集合研修 （１日）
オリエンテーション 事前調査に基づく課題の焦点化 授業改善の方向性検討	実践	中間発表 検証	実践	報告 まとめ

※ 「事前調査」では、質的調査（生徒の観察、省察、アンケート、生徒からの聞き取り等）及び数量的調査（各種テスト結果等）によるデータ収集を行う。

※ 勤務校での研修が円滑に進むように、授業改善の伴走者（メンター）が必要。
メンターは、アクション・リサーチなどに基づく授業改善方法を理解している同僚や、事前に研修を受けた指導主事などが担う。指導主事がメンターの場合、Ｅメールによるオンライン・メンタリングなどを継続実施するとともに、要請に応じて訪問メンタリングを行う。

都道府県等独自の研修（研修項目中心の組み立て：特定研修項目の重点化方式 or アラカルト方式）

【研修所における研修確保日数が３日間の場合： 特定研修項目の重点化方式】

例）当該年度に「パフォーマンス評価を含む５つの領域の総合的な評価（テスト作成を含む）」を重点的に研修する計画を立てた場合

集合研修 ⇒ （１日）	勤務校での研修 ⇒	集合研修 ⇒ （0.5日）	勤務校での研修 ⇒	集合研修 ⇒ （0.5日）	勤務校での研修 ⇒	集合研修 （１日）
・テストや事例の持ち寄り ・テスティング専門家による講義や演習	・パフォーマンステストの作成・実施 ・パフォーマンス評価	・テストや事例の持ち寄り ・パフォーマンステストの映像視聴 ・改善の方向性検討	・パフォーマンステストの作成・実施 ・パフォーマンス評価	・テストや事例の持ち寄り ・パフォーマンステストの映像視聴 ・改善の方向性検討	・パフォーマンステストの作成・実施 ・パフォーマンス評価	・振り返り発表 ・テスティング専門家による講評 ・まとめ

【研修所における研修確保日数が４日間の場合： アラカルト方式】

各研修領域より適宜必要な項目を選び、組み合わせる。

１日目（指導技術）	２日目（授業づくり）	３日目（専門知識）	４日目（英語力向上）
・５つの領域別の目標に基づく指導 ・音声指導 ・語彙・表現指導 ・文法指導 ・英語でのインタラクション（ティーチャー・トークを含む） ・若手教員等への指導技術の指導	・アクション・リサーチなどに基づく授業改善 ・領域別の学習到達目標の設定と改善 ・学習到達目標に基づく年間指導計画・単元計画の作成 ・授業の組み立て ・学習指導案の作成 ・教科用図書を活用した授業 ・生徒による学習の振り返り ・ALT等とのティーム・ティーチング ・教材研究・ICT等の活用 ・パフォーマンス評価を含む５つの領域の総合的な評価（テスト作成を含む） ・授業研究会等の企画・運営 ・モデルとなる授業	・第二言語習得 ・学習指導要領 ・小・中・高等学校連携 ・カリキュラム開発 ・英語教育の最新事情 ・教職に役立つ英文法 ・音声指導に役立つ英語音声学 ・異文化交流	・英語力向上研修 ・英語の外部資格・検定試験（４技能型）を活用した英語力の自己モニター